Title	ニーバーの愛と正義の弁証法的理解および世界共同体論（共同研究報告：ラインホールド・ニーバー研究）
Author(s)	松田, 寿美子
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.2：17-17
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3151
Rights	

聖学院学術情報発信システム ： SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

共同研究報告

【ラインホールド・ニーバー研究】
ニーバーの愛と正義の弁証法的理解および世界共同体論

2011年６月６日、聖学院本部新館２階集会室に於いて、第１回ラインホールド・ニーバー研究会が開催された。参加者35名で、国際基督教大学教授の千葉眞氏から、上記の表題について報告をいただいた。概要は以下の通りである。

千葉氏は、ラインホールド・ニーバーの今日的意義（Reinhold Niebuhr Today）・リチャード・J・ノイハウス、宗教的に基礎づけられた公共哲学の再構成の課題との関連でニーバーは重要であるとしている。

「リチャード・ローティー」「ジョン・ロールズ」「ロバート・D・パットナム」「一般的に宗教的言説を公共理性の領域から排除しようとするリベラリズムの立場への批判」「ユルゲン・ハーバーマス・チャールズ・テイラー、ジュディス・バトラー、コーネル・ウェスト」の五つの事例を提示し、公共理性と宗教の問題を論じられた。

次に、１、愛と正義の弁証法的理解『人間の本性と定め』、２、『光の子と闇の子』における世界共同体論について分類され、ニーバーの典型的主張は、神の国の完成、愛の完全な成就は、歴史の終極においてのみ想望される。歴史の内側にあってはせいぜい「近似的解決」（proximate solutions）が期待されるのみである。また、ニーバーの世界共同体論は、基本的には世界共同体の形成を肯定的に捉え、その実現を希求する立場に立っているとまとめられた。

国際基督教大学教授　千葉眞氏

おわりに、ニーバーの今日的意義、ヨーロッパ連合（EU）の試みについて結ばれた。

質疑応答では、活発な論議が行われた。

（文責：松田寿美子　聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程）

（2011年６月６日、聖学院本部新館２階）